

# 大山崎町財政とまちづくりについての意見

## 資料

8月31日 京都新聞切り抜き(新指標)

京都府ホームページ 財政状況等一覧表(大山崎)

京都府ホームページ 歳出比較分析表(大山崎)

京都府ホームページ 市町村財政比較分析表(大山崎)

町民アンケートによる課題(第3次総合計画第2期基本計画より)

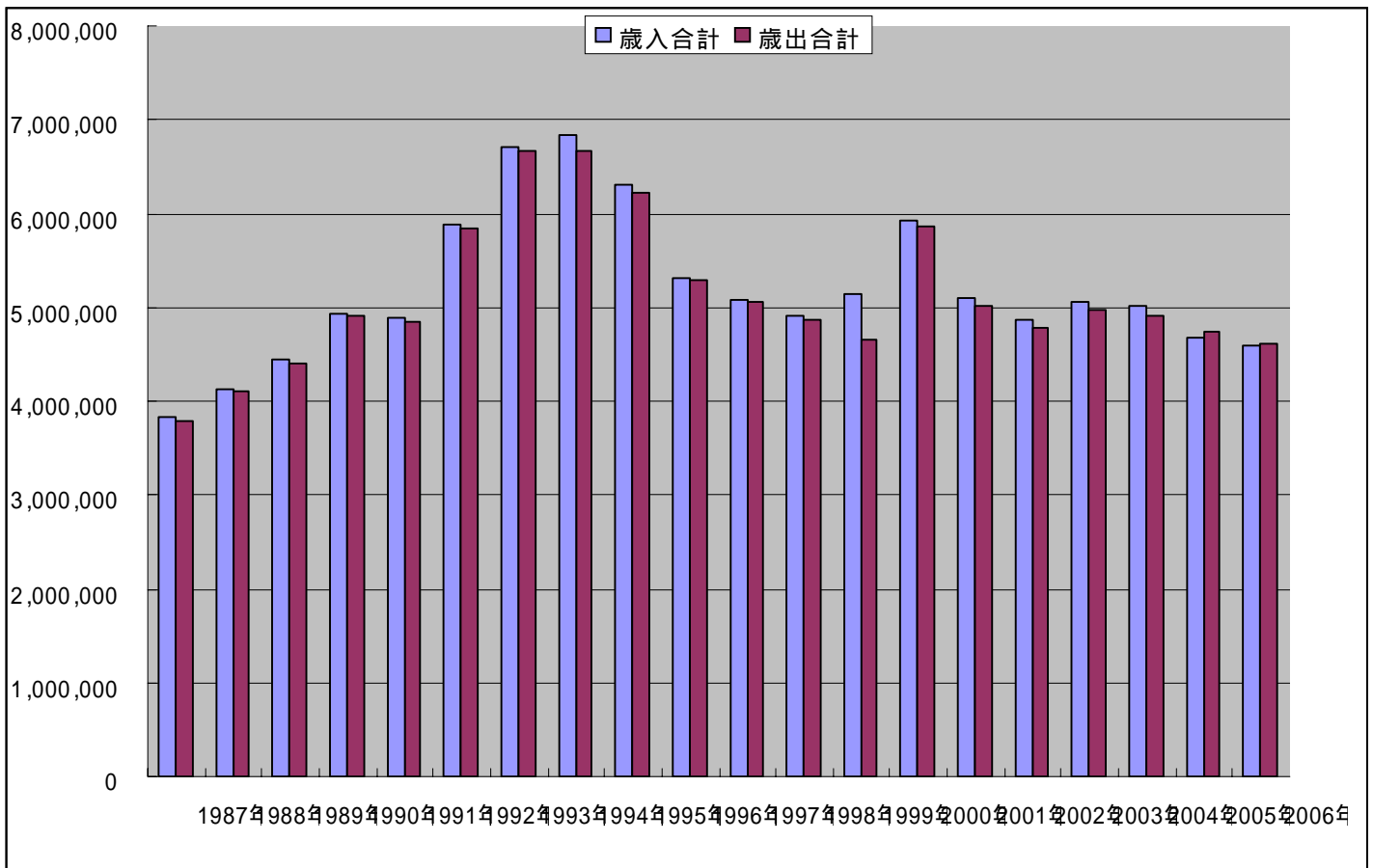


## はじめに

おつ研の行財政検討会が、6月27日に発足し第1回の検討会を行いました。乙訓2市1町の行財政について検討・研究し「地域を知る例会」と併せて乙訓のこれからを考える材料の提供が出来ればと考えています。最初に、大山崎の行財政についての勉強から始めました。今後、検討会を重ね、若干の節目毎にこうしたレポートの形にして蓄積していきたいと考えます。関係の方々のご協力とご助言をお願い致します。

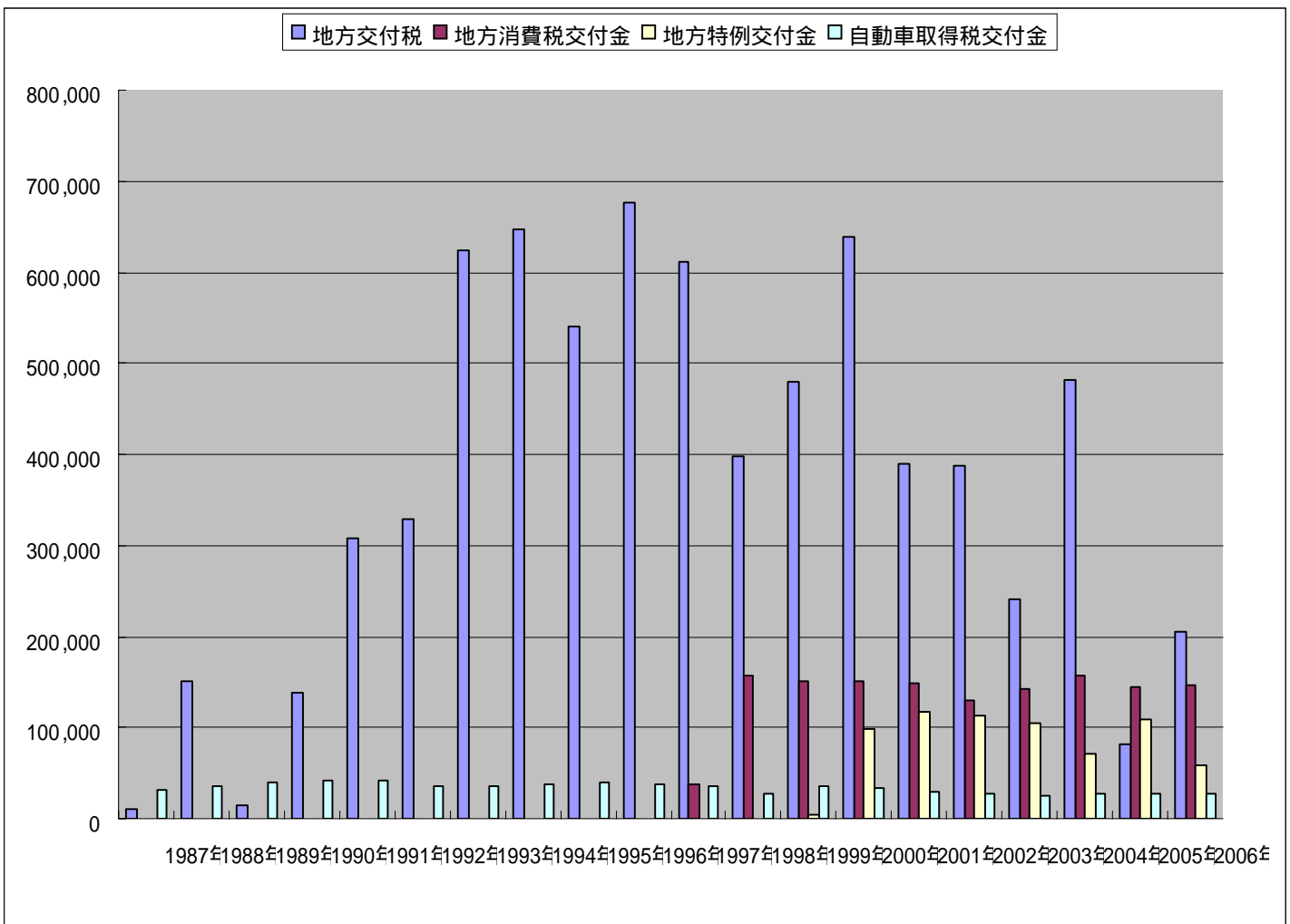
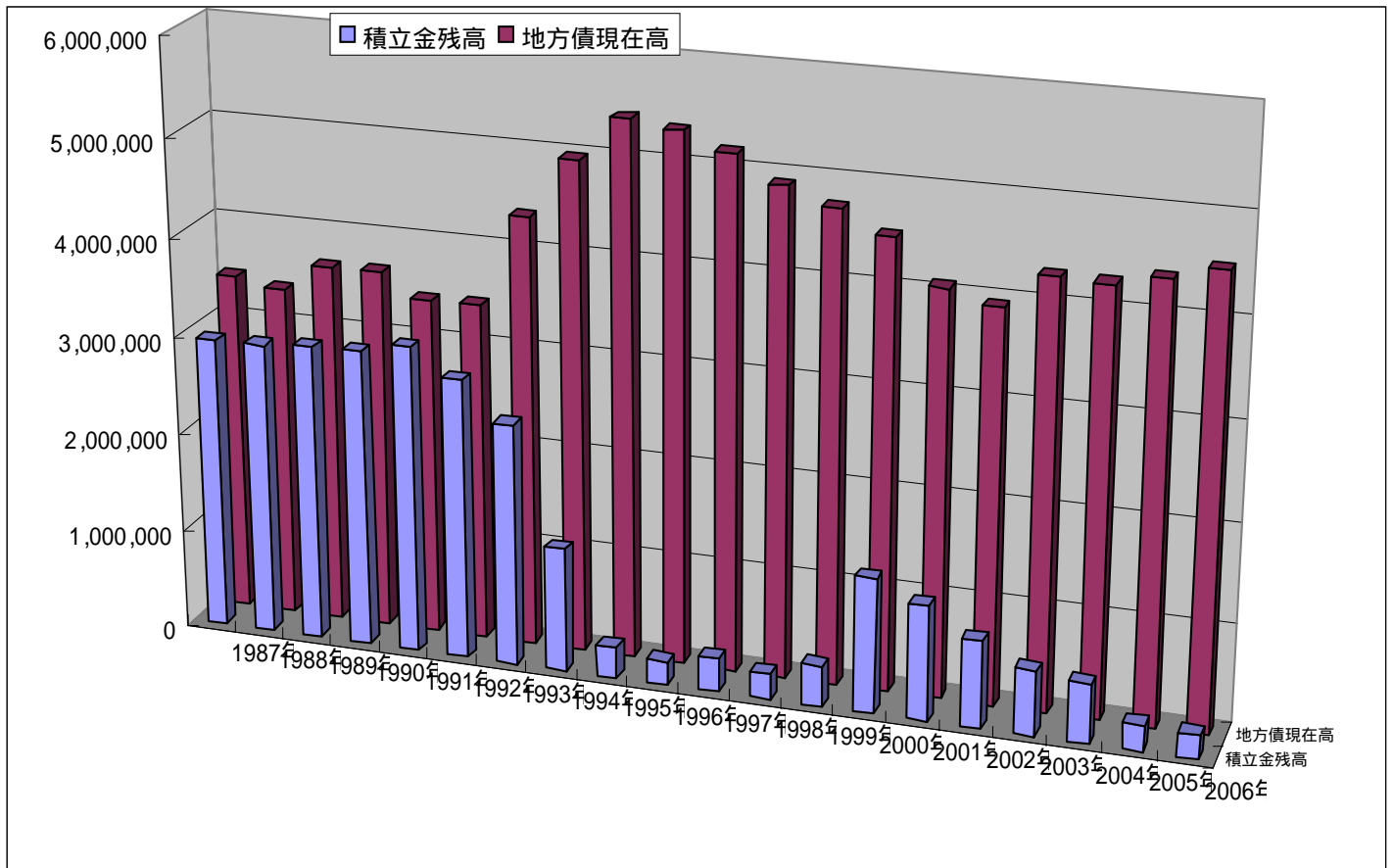
このレポートは、大山崎町の財政資料、当局の担当者からのヒアリング、大山崎町職執行部の意見、などをもとに検討会メンバーがまとめました。(なお、グラフの金額は千円が単位になっています。)

## 大山崎町財政の概要



2006年度予算は単年度では赤字でした。2005年は、大山崎町は不交付団体となり、富裕な自治体のように見られましたが、結果的には見積もりの齟齬であり、歳出が上回る決算になっています。

歳出・歳入の総額グラフだけで見ると、1994年までが右肩あがりの決算を続けており、一見順調な自治体財政のように見えます。しかし、地方債残高と積立金等のバランスグラフを見ると1992年～94年にかけて、借金財政構造に陥り、それ以後これが大きな桎梏となったことが分かります。2000年にやや改善の兆しがありましたが、その後再び構造的な財政硬直化が見られるのです。大山崎町は2000年には学校給食の調理業務民間委託を1校行って大山崎版の自治体リストラを始めたのです。2003年4月にはもう1校も民間委託し、この業務は町の直接実施業務ではなくなりました。当時の学校給食調理業務民間委託は「財政の見通しが立たない。業務を安上がりにする必要がある」というのが(組合や給食を守る会への回答)主な理由でした。



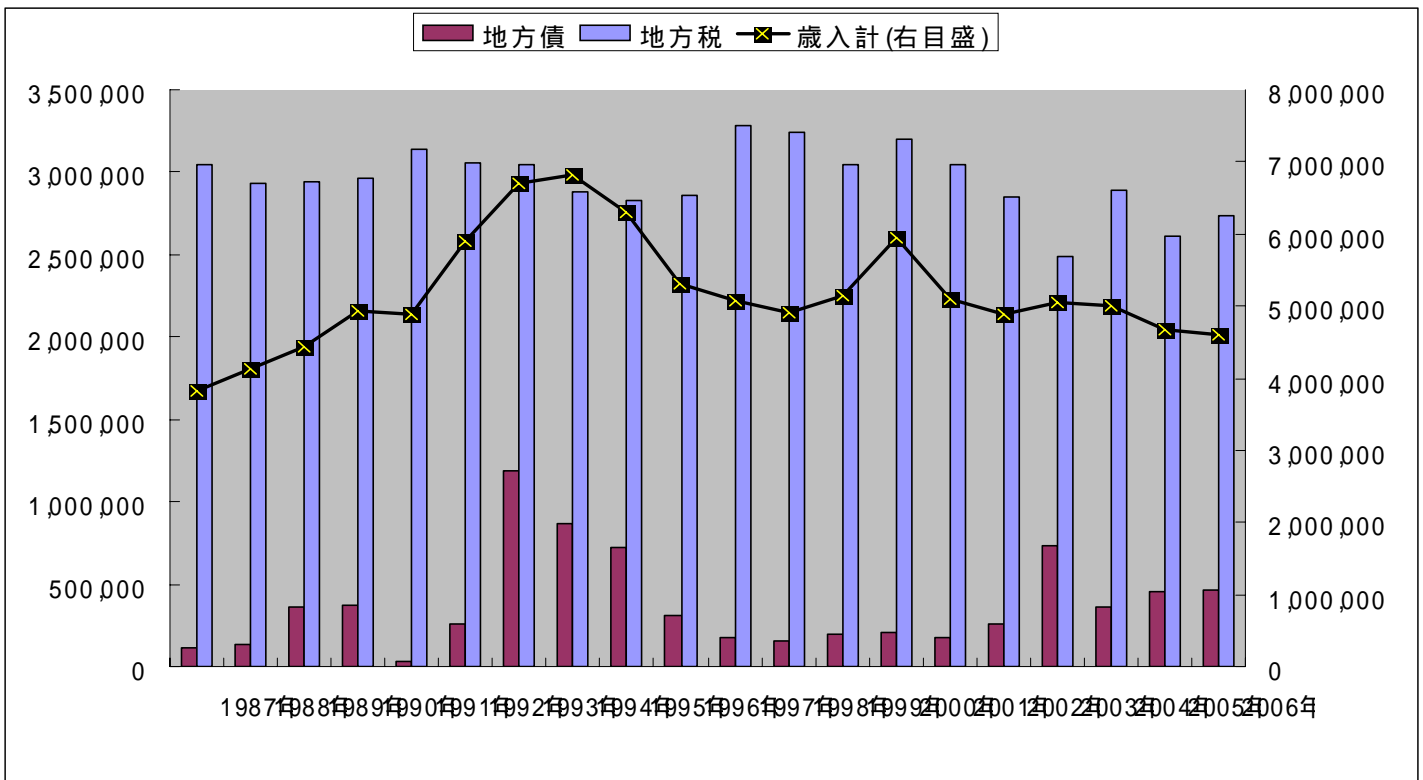
しかし、財政が困難になった原因は明らかに、学校給食調理業務ではありませんでした。財政の健全化という明文はいかにも当たり前聞こえますが、住民のくらしの組織である地方自治体の財政健全化は、あくまで住民のくらしからみてどうなのかという理念抜きに進めることはできません。そうでないとその自治体の住民のくらしそっちのけのリストラが先行し、自治体そのものの有り様すら否定する状況になるからです。

まず、この現状(困難になった原因)がなぜ生まれたのかを考える必要があります。そして、住民にとってくらしよい地域、そのようなまちをつくるのかという理念をしっかりと議論することが不可欠です。

社会的(国家的)な状況の変化を考えてみますと、政府がアメリカに公約した内需拡大(630兆円)を進めるために、地方自治体の財政を活用しようと考えました。全国の自治体で、主に建設事業などを大いに推進しようと言っただけで、地方単独事業の奨励が1992年(当時の自治省に単独事業推進相談室が設けられた)から始まりました。政府は地方単独事業による建設事業(借入金による)にも、後に交付税から返済分を措置(7割程度は返るといふ)するといふような誘導を行いました。しかし、第一にちゃんと交付税に含まれているのかどうかは明確ではありません。しかも交付税の交付のない自治体ではなんのメリットもないこととなります。大山崎町は1980年代に交付税を受けていない団体(不交付団体)であったことがあり、グラフからもけっして交付税が歳入のなかで安定した財源ではなかったのです。

実際に、政府の誘導策の時期に大山崎町も単独事業を町財政規模からみて活発に行いました。性質別歳出のグラフを見ても、投資的経費がその時期に著しく伸びていることが伺えます。しかし、その後の政府や京都府の財政措置についての見通しは甘かったように感じられます。

## 歳入、税収の変化



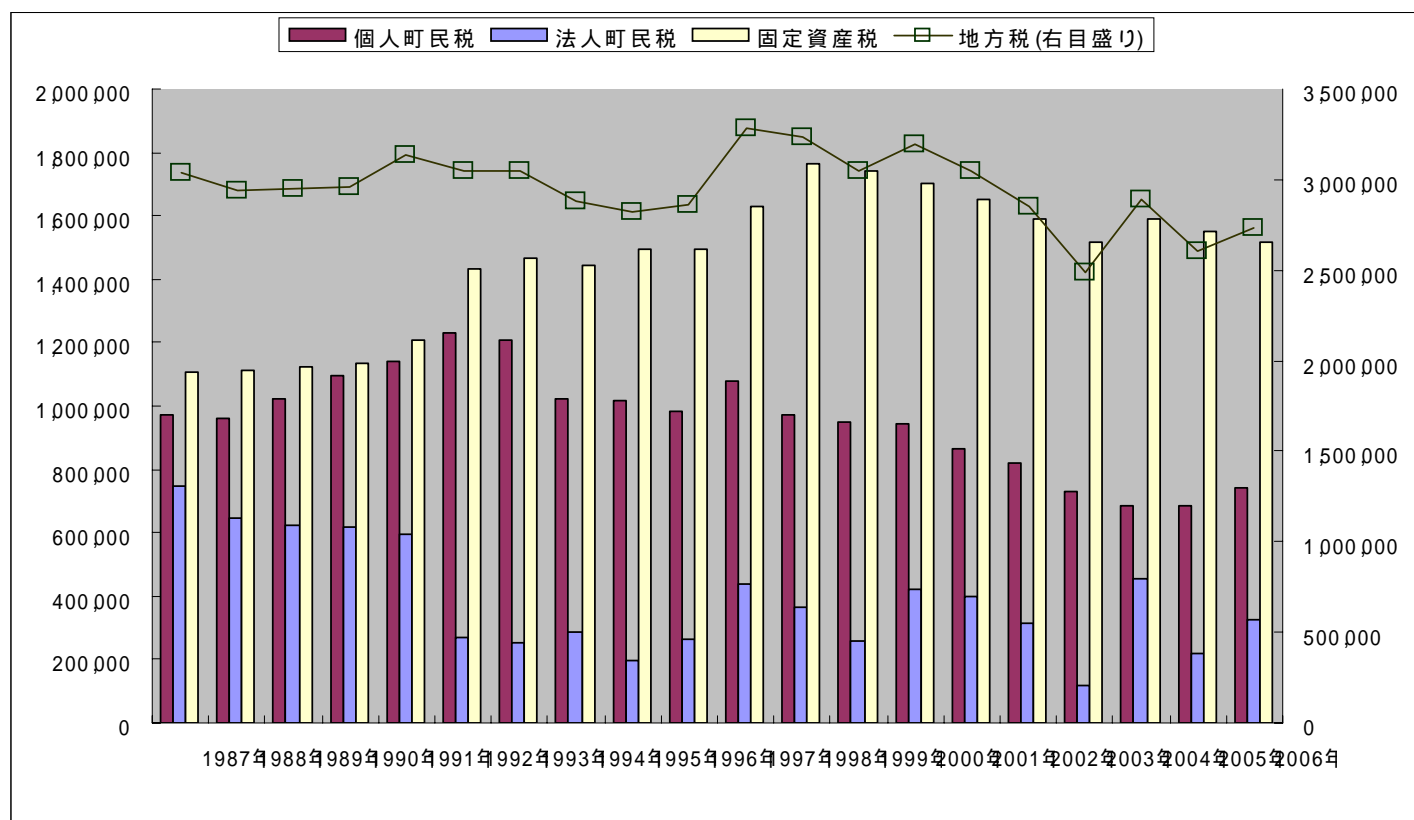
消費税は1989年に導入(税率3%)、1997年に税率5%(地方消費税を含む)となりましたが、これに対応する法人税や所得税の減税などの影響が税収の不安定化を招いた時期(90年代前半からはじまる)が、地方単独事業によって借金が増えた時期と重なっています。

また、政府は2002年から本格的に地方分権改革なるものを推進し、自治体再編、自治体民間化、交付税の削減などに乗じた。グラフを見ると1990年代は事業をするために借金(地方債)をつくり、2000年代は税収不足を補うために借金をする構造になっているように思われます。

税収内訳などを見ていくと、地方税収入が近年不安定化を増していることが見られます。消費税が3%の税率で1989年に導入、1997年に5% (地方消費税を含む)の税率に引き上げ、この消費税導入後の法人税等の減税などの影響が出ていると言わざるを得ない状況です。

法人税(国税)の基本税率についていえば、消費税導入前(1988)は42%でした。それが89年に40%、90年に37.5%、98年に34.5%、99年に30%に引き下げられています。2005年の交付税不交付問題に見られますが、少数の大企業税収からの影響を受ける大山崎町の財政構造について考える、考慮していく必要があります。

2006年度決算で、京都市の税収内訳と比較してみると個人町民(市民)税は大山崎町27.07%・京都市29.39%、法人町民(市民)税は大山崎13.44%・京都市15.47%、固定資産税55.36%・京都市39.29(都市計画税を加えても48.03%)%です。税収から見る町の特徴と言えば、大山崎町は「住む町」と言えると思います。税収内訳グラフを見ると、1992年に法人町民税の落ち込みが見られ、個人町民税もこの年から漸減傾向に入っています。反面、固定資産税が大山崎町の基幹税になっていることが伺えます。



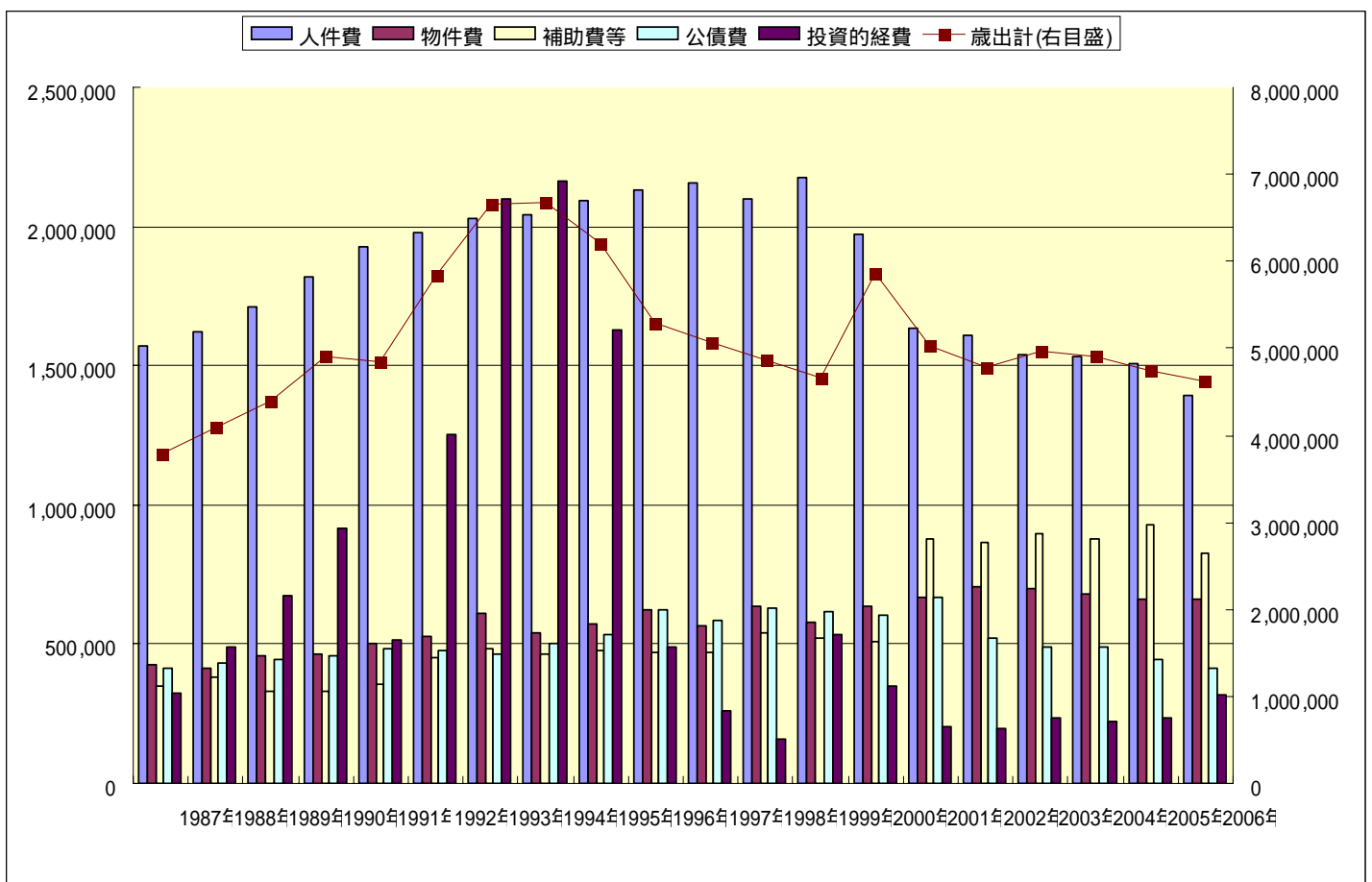
## 集中改革プランの策定と歳出

2006年3月、大山崎当局は「このまま推移すれば単年度赤字が累積することになる」と、平成21年度で単年度赤字の解消を目指した」とする集中改革プランを策定しました。当局の説明によると、見直しの項目と効果額は以下の通り(平成18年度～19年度)となっています。なお、効果額とは集中改革プランを実施しない場合のシュミレーションからどれだけ収入増また

は節減できたかの額であり 実態と乖離している場合があるという前提で出されています。

住民等の参画と協働によるまちづくり(12事業)	効果額は示されていない
評価制度の確立(3事業)	効果額 1億7千6百万円
民間活力の導入(3事業)	効果額 1千7百万円
職員数・人件費の削減(4事業)	効果額 3億4914万4千円
財源の確保(3事業)	効果額 6743万4千円

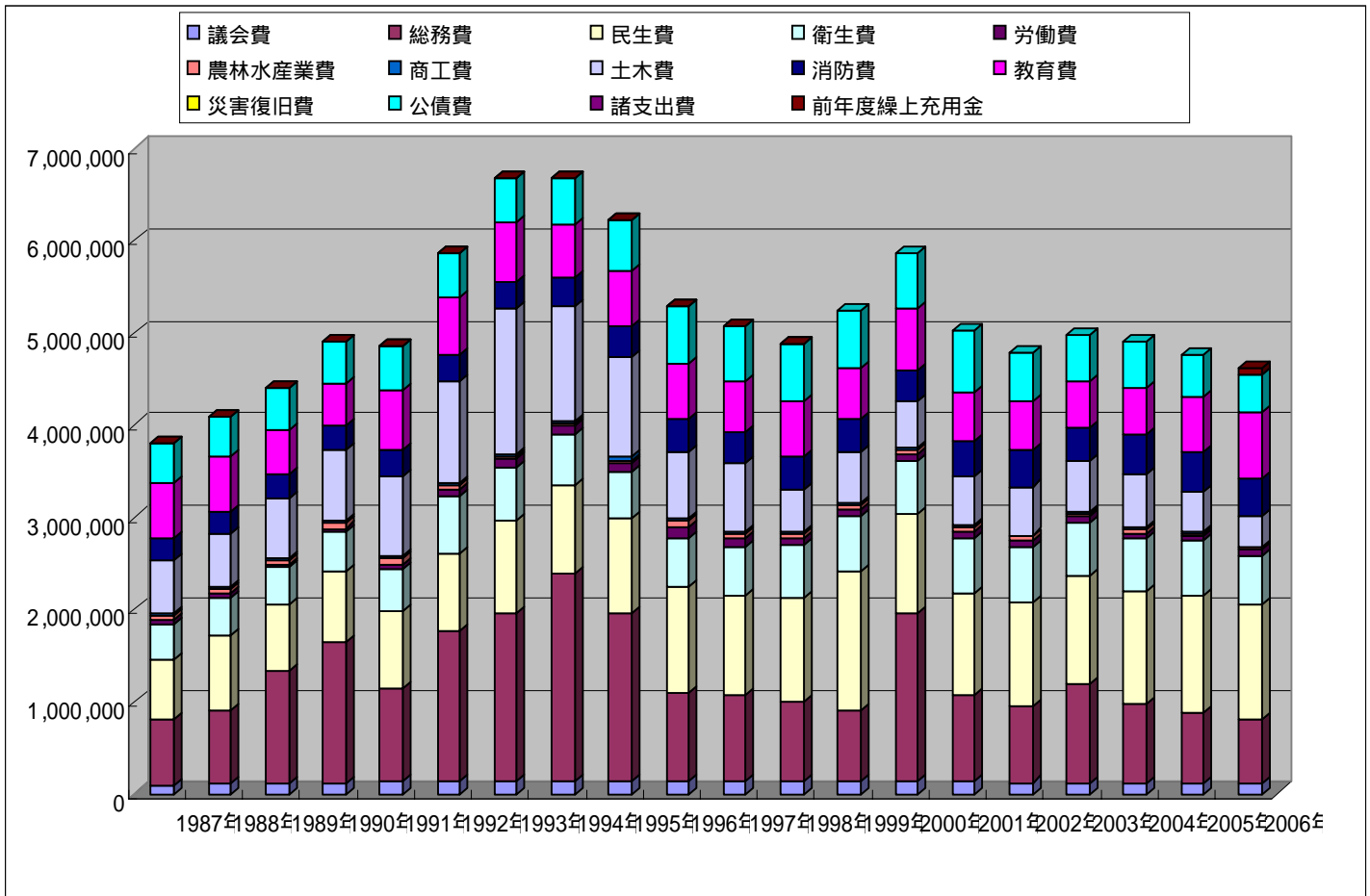
財政の認識として、'19年度は財産売却など歳入面で上手くいった状況もあり なんとか単年度黒字(約9千2百万円)でいけそうな状況だが、全体的に厳しい事態をクリアしたわけではなく、引き続き引き締めていかなければダメだと考える。中学校の土地代金の負担、退手債などで歳入をクリアしている状況、水道事業問題など財政面での課題を抱えている。」という説明でした。



人件費は、退職者が予想より多く出た(早期退職)こともあり 目標を上回る削減となっています(120名というのが最終目標?)。実際には削減が第一の課題になっており 政府のいう画一的な類似団体比較を参考に目標を決めている問題を感じます。どのようなまちをつくるのか、役所の役割がなになのかを絶えず問題意識として持っていないと、なんのための改革が分からず、大山崎町にとって必要なものまで失ってしまう結果となるでしょう

補助費の増は、一部事務組合への支出増が反映しています。例えば、消防の広域一部事務組合化は大山崎が呼びかけたものでした。今後の高齢化社会に対応する消防体制の確保や、名神高速道路の大山崎ジャンクションが出来たことで、大山崎消防の守備範囲が広域化(大阪にも出なければならなくなる事情など)することから判断されたものですが、広域行政は必ず効率的するものではないと思われます。

物件費の増は、最近の電算化などの事業の増大などではないかと思われます。この件に関しても、京都府の事務の共同化や移譲に関わるソフト開発などなどは基礎自治体にとっての新たな公共事業支出のような負担となっている現状を表しています。



### 特別会計では

水道事業については、京都府営水道の供給が2000年(平成12年)10月1日から始まった。1999年(平成11年)度は大山崎町水道会計における損益は毎単年度黒字であったが、2000年(平成12年)度以降、2006年(平成18年)度までの間は毎単年度の損益が大幅な赤字になっており、2000年(平成12年)度以降の累積赤字は7億6855万2000円にもなっている。このことをめぐって大山崎町が京都府を提訴するに及んだことは知られているとおりである。

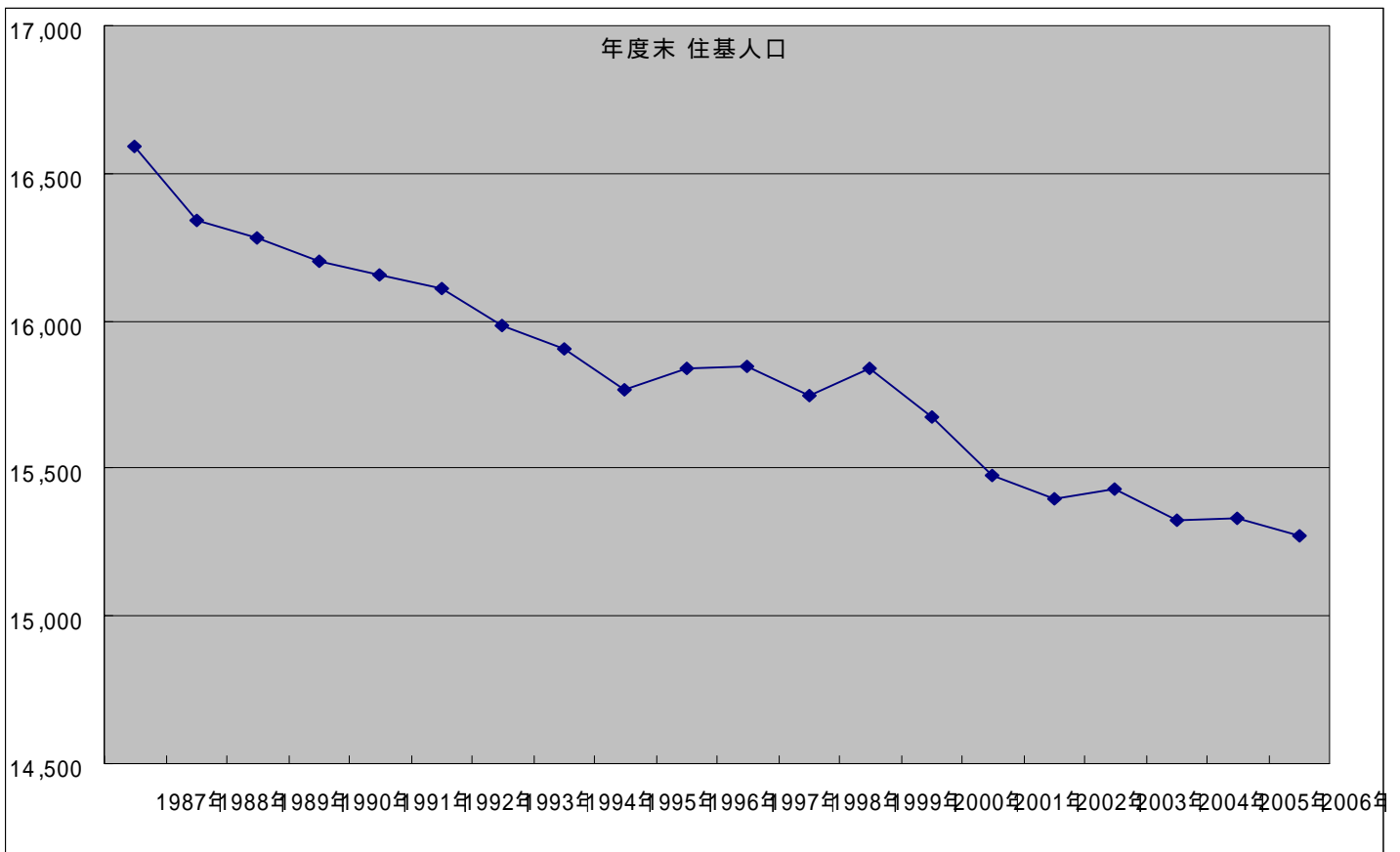
年度	損益	原水及び浄水費
1999年度	3850万1000円	1億3540万4000円
2000年度	- 1億0226万0000円	2億4343万3000円
2001年度	- 1億7530万0000円	3億5572万7000円
2002年度	- 1億8948万6000円	3億5515万2000円
2003年度	- 1億5748万8000円	3億4362万6000円
2004年度	- 6075万2000円	3億5567万1000円
2005年度	- 3256万6000円	3億5087万3000円
2006年度	- 5070万0000円	3億5992万8000円
2000年以降累積	- 7億6855万2000円	

公共下水の料金は府内で下から2番目に安い。ポンプ場などの施設を抱えており、今後の計画的な会計運営が必要です。連結決算で自治体財政の指標とされることから健全化を追求する必要が指摘されています。国保会計も赤字です。

## どんな大山崎町にしていくのか

大阪の橋下改革などは財政再建最優先として、やみくもな削減を行っているが、これまで何が間違っていて、これからどんな大阪をつくるのかという方向性がないものである(しかし、特定の公共事業についてはそのままの予算執行となっており、方向性がないというよりもことに偏った「改革」と言った方が正しいのかも知れない)。「恥の上塗り」という言葉があるが、これでは財政政策の失敗の上塗りになることは必定だ。政府の新指標も画一的な適用は地方自治の自殺行為 = 住民のくらしの基盤を破壊することになる。

現状の予算を分析して、改善・改革案を議論する前提として、どのような大山崎町をつくるのか、行政の姿勢をどこに置くかという意思統一・議論が不可欠の様に思われる。大山崎町の位置・歴史や人口構造などについて分析が必要とも思われる。



大山崎のまちづくりについて、行財政検討会で議論したり、当局からのレクチャーを受けたりした中身をもとに、職員の方で話し合ってもらいました。

大山崎のイメージは？

「自然が良い。子育ての条件(保育所・学童など)が良い。乙訓の中でも、地域のつながりが強い。住民の声が反映しやすい。住みやすいまち。」という中身が出されました。

大山崎の良さは

「長岡京市に住んでいたが、子どもを育てるとのこと(長岡京市の保育所ではカラー帽子を必ずかぶせるとか保育内容



にも疑問があった)を考へて、大山崎に移ってきた。クリスマスの時のイルミネーションが綺麗になってきた。都会に近い田舎というのが良い。水が美味しい(しかしお金が高くなって...)。」など大山崎のイメージとダブル意見でした。

住んでいてこんな風になればいいなど感じる点

隣の長岡京市などは買い物がいっぱい便利。大山崎は小さい町の良さがあるが、買い物は不便。アート広場や、朝市などもあるがイマイチアピールが足りないのでは。なにかしよびん(祇園ことば、貧相なこと)な気もするし。友達と話していて、大山崎の山崎山荘が良いので行ってみようという話題になるが、ところで昼に食べる場所あるのかなどの質問が。ちょっとした茶店とうどん屋さんはあるのだが...。」という町の整備についての意見や、耳鼻科と眼科があれば、「住み続けられるまちづくりになってほしい。」ということでした。

町に働いていて感じること

定住政策が必要なのは。円明寺団地の人たちは長岡京の駅に行くし、山崎の人は高槻の方に行くし、生活圏が京都と大阪に分かれているようだ。歴史的なものも多く、町全体として歴史ミュージアム的に整備しようという意見もある。」イメージ的には大山崎の特徴というものが、結構町民の方の中にもハッキリしているものがあると感じられます。ただ、今後のまちづくりについては、整備の方向も含めてまだまだはっきりしていないと思います。今後、町政を通じて、また住民運動を通じて、「まちづくり」についての議論の活性化が必要と思われます。そのためにも、町の研究活動を町政の財政分析活動と合わせて町民レベルでの運動としてすすめられる必要があり、この点で町職員の労働組合や町内の団体などの連携が必要と思われます。

#### 大山崎町の歴史年表(第3次総合計画第2期基本計画より抜粋)

##### 大山崎町の歴史年表

- 前2万年頃 この頃、天王山麓に人々が住みはじめる
- 前200年頃 淀川沿岸で米作りはじまる
- 653 白雉 4 孝徳天皇、山崎宮を造るという
- 731 天平 3 行基、山崎院を造るという
- 784 延暦 3 都が長岡の地に遷る
- 861 貞観 3 河陽離宮を山城国府とする
- 1482 文明14 細川政元・畠山政長、畠山義就を討つため山崎宝寺に着陣 この年、山崎で数百軒焼失
- 1568 永禄11 織田信長が大山崎に禁制を出す
- 1570 元亀元 浅井・朝倉等戦国大名が大山崎に禁制を出す
- 1582 天正10 羽柴秀吉、山崎合戦で明智光秀を破る 秀吉、山崎城を築き、利休らと茶会を開く
- 1596 文禄 5 秀吉、毛利ら諸大名に淀川大改修を命じる
- 1601 慶長 6 徳川家康、大山崎を神領とし、自治を認める
- 1635 寛永12 離宮八幡宮、寛永の造営成る
- 1681 延宝 9 木喰以空、観音寺を中興する
- 1753 宝暦 3 大山崎宿と西岡60ヶ村で助郷についての取り決めが成立
- 1864 元治元 禁門の変起こる(その余波で大山崎大火)
- 1868 明治元 京都府が設置され、その管轄下に入る
- 1873 明治 6 大山崎小学校開校
- 1877 明治10 国鉄山崎駅開業
- 1881 明治14 大山崎荘、荘内規則を定める
- 1889 明治22 大山崎村の成立(三付の合併)

- 1928 昭和 3 新京阪電車開通、大山崎駅開設
- 1932 昭和 7 国道171号線が開通
- 1957 昭和32 大山崎保育所開設
- 1960 昭和35 上水道給水はじまる
- 1961 昭和36 工場進出はじまる
- 1962 昭和37 山崎の渡しを廃止
- 1963 昭和38 名神高速道路開通
- 1964 昭和39 乙訓環規衛生組合発足 東海道新幹線開通
- 1966 昭和41 円明寺ヶ丘団地建設
- 1967 昭和42 大山崎町制施行
- 1971 昭和46 第二乙訓中学校(現大山崎中学校)開校
- 1973 昭和48 第二大山崎小学校開校 中央公民館完成
- 1979 昭和54 大山崎町立老人福祉センター「長寿苑」完成、公共下水道供用開始(下植野地区の一部)
- 1981 昭和56 大山崎町史史料編発刊、大山崎町歌 音頭制定、大山崎町污水中継ポンプ場完成
- 1983 昭和58 天王山中腹に休憩所完成 大山崎町史完成
- 1984 昭和59 社会福祉協議会、法人化
- 1985 昭和60 保健センター完成
- 1986 昭和61 大山崎町新総合計画策定 町体育館完成
- 1987 昭和62 町制20周年
- 1988 昭和63 第43回国民体育大会フェンシング競技会を開催
- 1989 平成元 第1回おおやまざきまつり開催
- 1990 平成 2 シルバー人材センター設立
- 1991 平成 3 大山崎ふるさとセンター完成、大山崎町新総合計画案2期基本計画策定
- 1992 平成 4 町制25周年
- 1993 平成 5 歴史資料館開館
- 1994 平成 6 酒解神社鳥居再建
- 1995 平成 7 役場新庁舎竣工
- 1996 平成 8 アサヒビール大山崎山荘美術館開館、大山崎町新総合計画第3期基本計画策定
- 1997 平成 9 町制30周年
- 1998 平成10 西法寺里後線開通
- 1999 平成11 山崎駅自転車駐車場完成
- 2000 平成12 大山崎町福祉センター「なごみの郷」オープン
- 2001 平成13 乙訓広域消防発足、大山崎町第3次総合計画策定
- 2002 平成14 町制35周年
- 2003 平成15 京都第二外環状道路大山崎JCT～久御山CT開通、名神高速道路大L山創C 供用開始、国道478号供用開始
- 2005 平成17 第1回全国少年フェンシング大会を開催
- 2006 平成18 大山崎町第3次総合計画第2期基本計画策定

\*\*\*\* 参考(乙訓行財政検討会の開催状況) \*\*\*\*

2008年06月27日(金) おつ研 第1回乙訓行財政検討会

2市1町の行財政について基礎資料などを収集・整理して、それぞれの課題・問題点の明確化を行う。当面大山崎町の財政を中心に、9月までに中間報告的なものが出来るような作業を行う。」を決める。

【資料】 1999年10月大山崎町財政についての中間レポート

(大山崎町職・京都自治労連自治権推進委員会)

2006年10月大山崎町財政についての調査報告書

(都市行政コンサルタント初村尤而 - 大山崎町民主町政の会依頼)

2001年～2006年までの決算カード一覧(抜粋)

(京都自治労連自治研推進委員会)

基本水量決定処分取消請求の訴状抜粋

(大山崎町の最近の水道会計の動き)

2008年7月18日(金)おつ研 第2回乙訓行財政検討会

当局から財政当局から聞きたい点 財政の状況について(意見交換)

【資料】 最近の大山崎の歳入、歳出の状況(エクセル資料)

保育所入所児童数の推移、出生率など人口に関わる資料

広報 おおやまざき 7月号(行財政改革の成果)

2008年08月05日(火)おつ研 第3回乙訓行財政検討会

今村大山崎政策推進室長(財政担当)から集中改革プランの進捗状況(18年度～)について報告を聞く。その後、質疑応答。

【資料】 大山崎町財政1987年～2006年の資料(一部欠落・数字の曖昧な点も)

住基人口グラフ 歳入の経年グラフ(歳入計、地方債、普通税の変化)

法人税、個人税、固定資産税の推移グラフ

・目的別歳出グラフ 性質別歳出グラフ

積立金残高、地方債残高経年グラフ

集中改革プラン 19年度実績と今後の財政収支見通し平成20年6月(抄)

集中改革プラン 平成18年3月改定(抄)

大山崎町第3次総合計画 2006年5月

2008年09月10日(水)おつ研 第4回行財政検討会

大山崎の財政について

これまでの意見交換に基づくミニレポート(別紙)報告と意見の交換

\*\*\*\*\*